

「私達は感謝によって変わります」

申命記8章1節－10節

早いものでサンクスギビングのシーズンとなりました。サンクスギビングが終わりますと、あっという間に今年も終わり、気がつけば私達は新年を迎えていることでしょうか。そのような一年の最後を私達は感謝と共に終えることができるでしょうか。今日はこのことを踏まえて三つの感謝、すなわち「既に与えられているものに感謝する」「願っていないことに感謝する」「主が共にいることに感謝する」についてお話しします。

聖書の申命記8章1節から10節を読みます。この聖書箇所には400年もの間、エジプトにおいて奴隷となっていた数百万とも言われるイスラエルの民が（彼らは今日のユダヤ人の祖先となります）、エジプトでどのように過ごし、またそこから解放されて荒野の40年間をどのように過ごしたか、すなわち、そのような時に神様は彼らとどのように関わってくださったかということが書かれています。

わたしが、きょう、命じるこのすべての命令を、あなたがたは守って行わなければならない。そうすればあなたがたは生きることができ、かつふえ増し、主があなたがたの先祖に誓われた地にはいって、それを自分のものとすることができるであろう。あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。③それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることがあなたに知らせるためであった。④この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。⑤あなたはまた人がその子を訓練するように、あなたの神、主もあなたを訓練されることを心にとめなければならない。⑥あなたの神、主の命令を守り、その道に歩いて、彼を恐れなければならない。⑦それはあなたの神、主があなたを良い地に導き入れられるからである。そこは谷にも山にもわき出る水の流れ、泉、および淵のある地、⑧小麦、大麦、ぶどう、いちじく及びざくろのある地、油のオリーブの木、および蜜のある地、⑨あなたが食べる食物に欠けることなく、なんの乏しいこともない地である。その地の石は鉄であって、その山からは銅を掘り取ることができる。⑩あなたは食べて飽き、あなたの神、主がその良い地を賜ったことを感謝するであろう。

何年か前に世界中の有名人に対してアンケートがとられ一つの質問が投げかけられました。「もし、あなたの願いが一つ叶うとしたら何を願いますか」それに対して多くの答えが出されましたが、その中で一つの答えに大きな関心が寄せられました。それはこんな答えでした。「私が既に持っているもの、与えられているもの全てに対して、心からの感謝を捧げることができるようにと願います」

何ら説明のいらぬ、とても分かりやすい答えです。もし、私達がこの人が願ったような人になることができたらどうでしょうか。この答えをした人はとても賢い人だと思えます。なぜならその願いには、私達が願っている諸々の事を全て成就する真理が込められているように思えるからです。このようなことを考えつつ、今日最初のことを見ていきましょう。まず最初に「既に与えられているものに感謝する」ということをみてまいりましょう。

既に与えられているものに感謝する

3節から5節を読んでみましょう。

③それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。④この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。⑤あなたはまた人がその子を訓練するように、あなたの神、主もあなたを訓練されることを心にとめなければならない。

イスラエルの民が荒野で40年を過ごしたと言いましても私達はなかなかそれを想像することができません。しかし、私達は考えもしませんが、このサンディエゴの風土も本来は雨が極端に少ない土地でありますゆえに荒野なのです。しかし、さいわいなことにコロラド川という大きな川があり、そこから水が豊富に供給されている故に、私達はこの土地に緑の木々を生えさせることができるのです。そのサンディエゴの本当の姿を知りたいければ、フリーウェイ8で東に一時間も走れば、本来のサンディエゴの姿を見ることができます。イスラエルの民は、あのような土地に40年もの間、生きたのです。

そして、その場所というのは、私達が荒野で食物を探すことなどできないように、モーセと共にいた数百万もの人達はその過酷な土地で生きることなどは不可能なのです。ですから彼らを導かれた神様は、彼らの旅路の中でマナという不思議な食物を毎日、彼ら

のために天から降らせました。このマナという食べ物は「油菓子の味」のようだったと聖書は記しています(民数記11章8節)。

イスラエルの民はこの不思議な食べ物によって養われたのです。しかし、彼らがその荒野に暮らしていた時にこんなことが起きていたと民数記は書き残しています。

「また彼らのうちにいた多くの寄り集まり人は欲心を起し、イスラエルの人々もまた再び泣いて言った、「ああ、肉が食べたい。われわれは思い起こすが、エジプトでは、ただで魚を食べた。きゅうりも、すいかも、にらも、たまねぎも、そして、にんにくも。しかし、今、我々の精魂は尽きた。われわれの目の前には、このマナしかない。民数記11章4節-6節

神様はその日に必要なだけのマナを彼らに与えました。彼らはそのために種を植えたり、水をまいたりというような労働をする必要はありませんでした。それらはどんな人にも毎朝、与えられ続けたのです。聖書を読みますと、そのマナはきっかりその一日に十分なもので、翌日まで保存していても、翌日には腐ってしまって食べられないものであったと言います。彼らはそれを食べている限りは、その体が必要とするものは全て与えられていたのです。よほど栄養のある食物だったのでしょう。しかし、彼らはこのマナに不満を持ちました。彼らは自分で耕すこともなく、刈り取ることもなく無償で天から与えられているものに対して、感謝をすることを忘れたのです。

そんなイスラエルの民に神様はこうも語りかけておりました。『④この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった』。

彼らは荒野という場所におりながら、その着物が擦り切れることなく、その足がはれることもありませんでした。そんな日々が三か月続いたというのではなく、四十年、すなわち彼らが荒野に暮らし始めてから約束の地に定住するまでの間、彼らを神様は見守り、彼らに必要なものを与え続けました。

かつてまだ未発展の国での宣教活動に人生を捧げた宣教師がこんな三つの質問をその教え子達に問いかけました。

あなたは一組以上の靴をもっていますか？

あなたは一組以上の下着をもっていますか？

あなたは一日三食の食事のうち、そのうちの一食、何を食べるか自分で決めることができますか。

もし、あなたがこの3つの質問に対してイエスと答えることが出来るのなら、あなたはこの地球上に住む全人類のトップ10パーセントに入る人です。

この一年間、履く靴がなく裸足で野外を歩いて暮らしていたという方、人いますか。身につける下着を毎晩、洗って乾かして翌日同じものを毎日着ていた方いますか。この一年間、毎日毎食、自分が食べたいものを希望することなど論外で、誰かから供給された食物だけを我慢して食べていたという方いますか。

もし、私達が既に与えられているもの(それは数えれば無限にあります)に感謝して毎日を生きるなら、私達は極めて恵まれた人です。私達が既に与えられていることに対して感謝の思いを持たなくなる時、私達の心に暗雲が広がり、やがてしとしとと雨が降り始めることでしょう。

「あれがあったら、これがあれば」ではなく、私達が既に持っているもの、与えられているものに対して、もし私達が心からの感謝を捧げることができるようになったら、私達の人生の願いはほぼ叶えられているといってもいいでしょう。二つ目のことです、このことは「おや、聞き間違いか?」と思われるようなことです。そう、それは「願っていないことに感謝する」ということです。

願っていないことに感謝する

②あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならぬ。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。③それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに知らせるためであった。

おそらく私達はこの一年の間、思いがけないこと、願っていないことにいくつも直面したことでしょう。今、そのただ中にいるという人もいます。そのようなことにこのイスラエルの民達も遭いました。すなわち「苦しみ、試み」というものにもあったのです。しかし、驚くべきことはそれらの「苦しみ、試み」に対して神様は確かな目的と意味を与えているということです。すなわち、私達が試練や試みに遭うことによって「人はパンだけでは生きず、人は主の口から出る全ての言葉によって生きる」ということに気づくために神様は私達に試みを与えることがある。

そうです、私達は何を差し置いても知るべきことがあると聖書は言います。そして、時にそのことを知るために私達が試みと思われることが、そのきっかけとなります。変な言い方ですが、せっかく試みを受けているのなら、そこから得ることができる価値あるものをいただきましょう。その試みを支払ってもおつりがくるような収穫がそのところにはあるのだということを信じましょう。

今も日本人の多くが自分の願っていないような事が起きると占い師とか霊媒師のところに行きます。そこで高いお金を払って、「あなたの肩には祖父母の霊がいて、あなたが仏壇をきれいにしていないから、あなたに不幸を与えている」というようなありがたい話を聞かされるのです。冷静に考えましょう、あんなに優しくかったおじいちゃん、おばあちゃんがそんなことで怒っているはずはありませんでしょう。

「恐れ」の起源を知りましょう。人間にはあの創世記に記録されているエデンの園以来、恐れがあるのです。今日、人はその恐れを利用して、私達の心をあおります。彼らは私達の恐れにつけ入って利得を得ているのです。これから迎えるクリスマスについて聖書のメッセージは何でしょうか。そうです、「恐れるな！」です。み使いはマリアにも羊飼いにザカリアにも言ったのです「恐れるな！」と。

生まれつき盲人であった人がイエスと出会ったという話が聖書には書かれています(ヨハネ9章1節-)。彼を見たイエスの弟子達は「この人が生まれつき盲人なのは、本人の罪のためですか。それとも親の罪のせいですか」とイエスに尋ねたのです。しかし、イエスは何と言いましたか「それは本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」と言ったのです。

このように「恐れるな」という投げかけの言葉も「神のみわざがあらわれるためである」という言葉も今、私が思いつきで言っている言葉ではなく、確かに聖書の中に記されている神の言葉なのです。その言葉が私達が向き合っている諸々の困難・試練に対しても、大きな力となって語りかけるのです。そして、この言葉を自分自身に語られている言葉なのだとして信じて受け止める者は、世が与えることがない平安と力を得ることができるのです。

今、私達はこれからのことについて先が見えずに不安を抱えています。健康に関する問題、経済的な問題、いつどこで起きてもおかしくないテロの問題、これからのこの国、世界の行く末、そのような中で私達はあらためて本当に大切なことについて考え始めています。これらの諸々の問題は私達を不安の底に突き落とす力があると同時に、私達に最も大切なことを気付かせてくれる力もあるのです。問題に押しつぶされるのではなく

て、そこから大きな収穫を得ようではありませんか！

試練を通して私達がこれらのことに気がつかされるということはまさしく奇跡的なことです。聖書の言葉が成就しているからです。すなわち、私達が試みや試練に遭う時に、それまではパンこそが人生と思っていた私達が、私達はパンだけで生きるものではないのだ、そうだ、神の言葉と共に生きるのだということに気がついていく大きな機会となるからです。申命記が語っているとおりです。

それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることあなたに知らせるためであった。

このみ言葉は今を生きる私達に語りかけてきます。主はあなたの経済的困難の只中で、あなたの結婚問題の只中で、あなたの子育ての問題の只中で、年老いた親を抱えているその只中で、健康問題の只中で、これら私達が考えも、願ってもいなかった状況の中で私達に語りかけてきます。神様は私達が考えうるありとあらゆる「しばらくの慰めを得られるもの」によって生きるのではなく、神の口から出る、すなわち「聖書の言葉」によって生きるものなのだとすることを知らせようとなさっているのです。

主にある兄弟姉妹、実に私達が願っていないことを通して、私達は神が最も私達に願っていることを知るのであります。そして、それは神に感謝すべきことなのです。3つめのこと、それは「主が共にいることに感謝する」ということです。

主が共にいることに感謝する

このイスラエルの民の荒野での40年間、実はそこには裏話がありました。おそらくイスラエルの民はその出来事を知らなかったことでしょう。その出来事は彼らの指導者モーセに起きたことでした。

モーセが最初にイスラエルの民をその指導者として導くようにと神から使命が与えられた時、彼は躊躇して、彼は「わたしはいったい何者でしょうか」(出エジプト3章11節)と言いました。確かにそうです、誰が何百万もの民を荒野に導くことができますでしょうか。誰もがそんな責任を受けることにはしり込みします。モーセもそうだったのです。しかし、そんなモーセに神様は言ったのです。「わたしは必ずあなたと共にいる」(出エジプト3章12節)

2016年11月20日(日)「私達は感謝によって変わります」

また、その荒野の旅の半ば、くじけそうになった時にも神様はモーセに言われたのです「わたし自身が一緒に行くであろう」(出エジプト33章14節)。この言葉は文語訳で見ますと「わが臨在、汝と共にあり」という言葉です。

皆さん、私達にとって2017年はまさに未踏の地です。まだ誰もそこを歩いたことはない。しばしば、私達はどんな道を歩むのだろうかということを心配しますが、大切なことを忘れています。それは、その道を私は誰と共に歩くのかということです。

子供達がまだ幼い時、彼らに一人でガレージに行きなさいと言っても絶対に彼らは行きません。闇に包まれたガレージで何が起るか分からないからです。でも「父さんも一緒に行くから、行こう」と言えば彼らはスキップしてついてきます。

詩篇23篇、あの有名な歌の中でダビデは言いました「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわざを恐れませぬ。あなたがわたしと共におられるからです」。

人間は人間に四六時中付き添うことはできません。それが困難な道、ましてや生死にまで関わるような道となると、そこに最後まで伴うことができる人はいません。しかし、聖書の言葉は語りかけるのです。「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわざを恐れませぬ。あなたが共におられるからです」。私達はこの荒野においてモーセと決して離れず、共にいてくださった神が新しい2017年も共にいてくださるということを信じて、主に感謝するのです。

私達は今日、三つの感謝を一つ一つ確認しましょう。今、与えられていることに対しての感謝をしているか。願っていない時にも捧げることができる感謝があるか。主がどんな時にも私と共にいるというこの事実感謝しているか。

私はこれまで多くのお葬式を司式させていただき、また参列させていただきました。ほぼすべてのサービスには個人の写真が並べられました。そこに自分の代わりに愛犬の写真を置いたり、自分の家や愛車を飾った人はいません。その人のベストピクチャーが飾られました。それはあたかも「これがこの地上の人生を生きた私です」ということを語りかけていました。

そして、そのことは聖書が言っているように私達一人一人は神の作品であるということを示しています。私達はこの地上で生きている間に、創世記が私達全ての者は神のかたちに造られたという、そのかたちを取り戻すのです。それが神の作品として生きることであり、私達の人生の旅路の一番最後に、そんな私をご覧くださいと写真は飾ら

2016年11月20日（日）「私達は感謝によって変わります」

れるのです。その神のかたちとしての作品が造られるにあたり不可欠なことが、日々、神に感謝して生きるということなのです。

不平と不足で塗り固められた人生を送ってきますのなら、悲しく残念なことですが、その晩年もその思いと言葉、そしてそれにならった生き方をするようになりますでしょう。反対に感謝の思いと言葉で築き上げてきた人生なら、その晩年にもそれにならった生き方をするようになりますでしょう。そう、これらのことは突然そうなりなさいと言われてもできないのです。今の内から上からつついても、下からつついても感謝しか出てこない様な心を私達は整えていきたいのです。

2017年、私達の行く手に何が待ち受けているか私達には分かりません。しかし、私達がこの三つの感謝と共に生きる時に、私達はいかなる状況の中にあっても、私達はその旅を喜びと希望をもって続けていくことができるのです。お祈りしましょう。